

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566) 22-2111
FAX (0566) 25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 杉浦文雄
幹事 神谷強
会報委員長 中川耕児

2019 ~ 2020年度 国際ロータリー マーク・ダニエル・マローニー 会長テーマ

ROTARY CONNECTS THE WORLD ロータリーは世界をつなぐ

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3065回例会プログラム

[当年度=11回目; 当月=1週目]

2019年(令和元年)10月7日(月)

1. 例会……………〈司会:プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……………〈会長〉
3. 開会宣言
4. 国歌斉唱
5. ロータリーソング斉唱……………奉仕の理想
6. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
7. 食事
12:45 8. 会長挨拶並びに会長報告
9. お祝い
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)
10. 幹事報告
11. 出席報告
12. 委員会報告
13. ニコニコボックス報告
14. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(10/14)……………休会(法定休日)
(10/21)……………

新入会員アワー 稲吉 克己 会員
" 土屋 和哉 会員

※第1四半期皆出席の発表(出席委員会)

2. クラブフォーラム……………〈米山記念奨学委員会〉

- 13:00 卓話「米山記念奨学事業について」
地区米山記念奨学委員会
副委員長 加藤 英樹 様
(紹介者 磯部 一智 会員)
15. 謝辞
16. 点鐘……………〈会長〉
17. 閉会宣言
13:30 18. 散会

出席

会員総数 97名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 89名
欠席 10名 出席率 88.76%
前々回(9/9)の修正出席率 100%

会長報告

- 1) 9月19日、涼仙ゴルフ倶楽部にて、9月のゴルフコンペを開催しました。杉山欣輝会員が、グロス97、ハンディキャップ25.20、ネットスコア71.80で優勝されました。
2) 9月9日のガバナー補佐訪問に対してのお礼状が、西尾RCより届きました。

幹事報告

- 1) ワールドフードふれ愛フェスタのチケットを先週の例会で受け取っていない方はメールボックスに配布させて頂きましたので、ご確認をお願いします。(台風の為、中止となりました。)
2) 本日例会終了後に事務局にて理事会を開催しますので、関係の方はご出席をお願いします。

委員会報告

● 65周年実行委員会

65周年実行委員会の幹事だった加藤英樹です。本日皆様のお手許に65周年記念誌をお配り致しました。皆様の多大なる協力のお陰で完成することができました。ありがとうございました。

会長あいさつ

杉浦 文雄



10月に入り秋らしくなってきました、今年は早々とインフルエンザも発生しております、皆さま健康にご注意をお願いいたします。

私どもの社員で風邪を引かない自慢の男がおりますが、それは仕事でも家でも必ず外から帰ったら、手洗いうがいをする事だそうです。私もなかなか忘れてしまう時もありますが、見習う様にします、また、それ以外に良い事が有りましたら是非お聞かせください。

本日は報告にもなりますが、今年度のロータリー地区補助金事業として、いよいよ今月26日土曜日に刈谷ハイウェイオアシスにて、青少年奉仕活動事業と社会奉仕活動事業も兼ね合わせ『音楽とのふれあい』事業を開催いたします、そして移動例会にもなりますので皆様にはオアシスで例会に参加していただき、その後、ポリオ募金活動と音楽協会、小高原小学校金管バンド及びバトン部の演奏を見ていただき、その後一般の方々の園児、小学生、中学生皆さんに楽器の演奏体験をしていただく事業を行います。募金活動はそれぞれの皆様に30分程度参加していただくだけです、その後、オアシスファーム等でお買い物を楽しんでいただける時間も設けてありますので是非ご参加いただける様にお願ひ申し上げます。

詳しい内容はまた通知させていただきますので、ご予定よろしくお願ひ申し上げます。おおよそ午後3時頃には全てを終了いたします。

そして、もう一つは12日13日に WFF、ワールドふれあいフェスタがいよいよ開催されます、こちらはご家族で是非参加いただきたいですが、場所がテレビ塔下から少し南に下がりますして三越、松坂屋横の広場になりました、すでにチケットもお渡ししてありますのでお買い物、ワールドフードな食べ物、そしてステージのイベントをお楽しみいただきたいと思ひます、

米山奨学生やインターアクト、ロータリーアクトの皆さんも参加してる楽しいイベントです、他クラブのロータリアンにも会ったりする機会にもなりますのでよろしくお願ひします。

銀婚式のお祝い

深谷 稔彦 会員

卒寿のお祝い



坂 茂 会員

米寿のお祝い

野村 重彦 会員

お祝い

10月の会員の誕生日…坂茂、太田保、野村重彦、堀正剛、内藤耕造、大音祖瑛、深谷稔彦、塚本幸夫、室殿豊、山本直、新海伸二、山下雅則、土屋和哉、寺田博正会員。

配偶者の誕生日…加藤多津枝(哲也)、下谷裕子(敏朗)、田中恵里子(正之)、出口うつみ(達也)、磯部亜理佐(浩平)、加藤未友紀(大志朗)、盛田ともみ(高史)様。

結婚記念日…坂茂、太田保、大音祖瑛、堀正剛、盛田豊一、前田孝司、杉浦世志朗、太田宗一郎、加藤真治、河内利夫、新村淳彦、兵藤文男、横山宜幸、黒田栄一、石川泰隆、加藤英樹、深谷嘉英、深谷稔彦、磯部浩平、鬼頭一浩、近藤洋一会員。

10月度入会記念日…吉原孝彦、池田直樹、近藤洋一、新村淳彦、山本直会員。

クラブフォーラム

卓話 「米山記念奨学事業について」



地区米山記念奨学委員会

副委員長 加藤 英樹 様

初めに、刈谷 RC 様におかれましては、日頃より米山奨学事業に多大なるご貢献をいただき大変ありがとうございます。

個人寄付額の平均で24,116円。特別寄付比率74.2%のご貢献をいただいております。

皆様ご存知の事ではありますが、まずは概要を説明します。

ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリーが作り育てた独自の事業で、34地区、全地区が参加する多地区合同プロジェクトです。

1952年に事業が始まって以来、一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。

「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべてみなさんからのご寄付で成り立っています。

この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。銀行振込が多い他の奨学金とは違って、米山奨学生にはロータリー活動に共に参加してもらい、交流することを大切にしています。

いったんカウンセラーになると、ロータリークラブの活動そのものに熱心になる方も多く、入会間もない会員にカウンセラーを任せるといったクラブもあります。

実際にカウンセラーを体験した方からは、「刺激を受けることが多く、自分の仕事やプライベートに張り合いが生まれた」、「家族ぐるみの付き合いで自分の子どもに

国際交流を体験させることができ、ロータリーに入会して本当によかったと思えた」という声が寄せられています。

終戦翌年の1946年、「日本のロータリーの父」と呼ばれる米山梅吉氏が亡くなりました。

3年後の1949年、戦争のため解散を余儀なくされていた日本のロータリーが、国際ロータリーへ復帰します。

戦後、落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことができるような、何か有益な事業をやるのではないかという声が大きくなってきました。

当時の日本はまだ食糧事情もはかばかしくなく、会員たちは「クラブへ行けばお茶を入れてもらえる」と、弁当を持参し、ストーブを囲みながら熱心に議論をしていたそうです。（『ロータリー米山記念奨学会25年史』より）

そして1952年、東京 RC の古沢文作会長が「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたい、というものでした。

こうして、東京 RC が始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業として継承され、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

米山奨学事業は、日本のロータリー独自の活動として作られ、発展してきました。このため、ロータリーの活動ではあるものの、国際ロータリーとは一線を画す状況が自ずと続いていました。そうした関係が次第に変化してきたのは2004年頃からです。

2004年11月の RI 理事会で、「奨学金の授与を通し、世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を称賛する」とされ、ロータリー米山記念奨学会が「多地区合同奉仕活動」（現在は多地区合同活動）の手続きを取るにより、ロータリーの名称やロータリーマークを今後も引き続き使用することを認める、ということが決議されました。

2007年には全34地区からの同意を得て、国際ロータリーの定める多地区合同奉仕活動として、すべての手続きを完了しました。

そして2014年1月の RI 理事会では、学友の定義が拡大され、米山学友もまた、ロータリーの学友となりました。これを受けて、2016年のソウル国際大会には世界中から多くの米山学友が集まり、ロータリーファミリーの一員として参加したのです。

そんな米山の最大の目的は民間外交として世界に平和の種をまくことです。

米山は、外国人留学生を対象とする民間の奨学金では国内最大規模です。

今年4月からスタートした2019学年度は、日本全国で868人（前年度852人）が現在、各ロータリークラブでお世話をいただいています。累計では世界129の国と地域から2万1,023人を支援しています。

奨学生の国・地域別の割合はグラフのとおりです。累計では中国、韓国、台湾が多いですが、最近ではベトナム

の奨学生が急増しており、中国に次いで多くを占めています。

米山奨学生の採用は、全国統一の基準があります。

「将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか」

「交流への熱意があるかどうか」

「人柄の良さ」

「コミュニケーション能力の高さ」

ロータリー米山記念奨学会は2012年に公益財団法人となりました。

より一層の公平性・透明性を確保するため、このように全地区共通の選考基準で選考をし、「その他」で地区ごとの裁量を加えて良いことになっています。

米山奨学金はお金に困っている留学生の経済支援ではありません。

珍しい国だから、生活に困っているから、学校の成績が優秀だから、それだけでは米山奨学生に合格しないのです。

将来日本と世界の架け橋となりうる人材が米山奨学生になるのです。

奨学金はすべて給付型です。将来返済する必要のない奨学金です。

米山奨学事業の特徴は、一つ世話クラブへの参加、二つは年間行事への参加を通してのロータリアンとの交流促進。三つは学友会への所属移行による継続的なかわりです。

当地区では今年度、52人の奨学生を受け入れています。

国・地域別には、中国・マレーシア・ベトナムとなっています。

奨学生は、世話クラブの例会に参加するほか、〇〇などでも協力いただいています。

実際の奨学生の声です。

「カウンセラーが親のように接してくれるので安心できます。」

「多様な人に出会って自分の世界が広がりました。」

「世話クラブの例会に毎月参加、ロータリアンの発表を聞いて社会のモデルを学びました」

「人と人のつながりが一番大切なのだと気づきました。」

指導教員の先生方の声はどうでしょう。

「ロータリーの奨学生は履歴の一つになるので、生涯に渡って奨学生を支える立派な経歴になります。」

「交流を通して日本のファンをつくる奨学制度は、本来、国がやるべきこと、民間の力でそれができているのは本当に素晴らしいと思います。」

2020年度の奨学生数は860人です。

配当金と別枠の78人でそれ以外は個人平均額や特別寄付割合で確定します。

これは、地区別の個人平均寄付額です。

昨年度の全国平均は15,828円、最も高かったのは、第2590地区（神奈川県横浜市・川崎市）の28,210円でした。

当地区、第2760地区は黄色い矢印が指している所で、一人平均14,960円、全国で14番目でした。

もう少し詳しく見てみますと、当地区の普通寄付金は平均4,900円、全国平均は4,828円。

また、特別寄付金は10,060円、全国平均は11,000円でした。

これは昨年度の実績です。すべての分野で増額となりました。ありがとうございます。

2018-19年度の寄付金収入は14億1,200万円（前年度14億3,400万円）、前年度から約2千万円の減少となったものの、財団設立50周年を迎えた前年度から、ほぼ変わらぬご支援をいただきました。

巣立った奨学生のOB組織、米山学友会は日本に33、海外に9つあります。

日本は34地区なので1つ足りないように見えますが、日本の全地区に学友会があります。

（北海道＝ロータリー地区は2つですが、学友会は「北海道米山学友会」の1つであるため）

それぞれ、親睦を深めたり、自主的に社会奉仕活動をしたり、ロータリーの活動に協力したりしています。

『ロータリーの友』よねやまだよりでは、毎号、学友会の紹介をしているので、ぜひ注目してください。

巣立った奨学生たちは、個人としてもさまざまな形で活躍しています。教育や研究、NPOやNGO、起業する者などあらゆる分野にわたっています。

今年の豆辞典では13-14ページで6人の学友を紹介しています。あとでご覧ください。

ロータリーに親しんだ学友たちは、卒業後も、ロータリーとのつながりを持ち続けたいと願っています。

その1つとして、ローターアクトに入会する者、また、ロータリアンとしてクラブに入会する者もいます。

現在、ロータリアンになった学友は238人おり、その中には、ガバナーになった学友も3人います。

米山学友が中心メンバーとなって設立したロータリークラブも国内外に5つあります。

〈参考〉

※ガバナーになった米山学友

1人目：韓国の林隆義さん（リムユンウィ／1997-98年度 第3650地区ガバナー）

2人目：台湾の許国文さん（きょこくぶん／2005-06年度 第3490地区ガバナー）

3人目：台湾の林華明さん（りんかみん／2015-16年度 第3520地区ガバナー）

※韓国では2016年に、学友だけの衛星クラブ、「韓国米山セソウル・ロータリー衛星クラブ」が設立されましたが、残念ながら現在は解散しています

米山記念奨学事業の成果、それは「学友」の存在です。

2011年、東日本大震災が起きたとき、発生直後から日本の無事を願うメッセージが相次いで寄せられ、国内外の学友から760万円の義援金を送られました。

熊本大地震の時にも、上海米山学友会から20万円が寄せられました。

米山奨学会への寄付は、ロータリアンだけではなくありません。学友からも、先ほどの義援金以外に、累計3,530万円の寄付をいただいています（2019年6月末）。

(4)

東京の事務局にわざわざ大阪から来てくれた台湾出身の学友は、これまでに計200万円の遺言寄付を申請しています。

このほかにも、2007年から11年間、毎年50万円を海外から送金してくれている中国の学友もいます。

また、1回2,000円を、2014年から毎月こつこつと送金してくれる学友もいます。

こうした「寄付」という形でのロータリーへの恩返しは、他のプログラムではあまりみられないものです。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、昨年、内閣府賞勲局（しょうくんきょく）から、「紺綬褒章（こんじゅほうしょう）」の公益団体に認定されました。これにより、2018年9月12日以降のご寄付で、個人の場合は500万円以上、団体・企業などは1,000万円以上を当会へ寄付していただき、定められた条件を満たした場合に、紺綬褒章の授与申請をいたします。あらかじめ申し出ていただいた場合には、分納による寄付も可能です（分納期限に制限はありません）。

紺綬褒章とは、公益のために私財を寄付し功績顕著なる方々に対し、天皇陛下から授与される栄典です。関心のある方は、米山記念奨学会事務局へお問い合わせください。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、実際の奨学生の選考、お世話などの業務を、地区・ガバナー・世話クラブへ「委託」しているといえます。これまでは特に取り決めなどもなく運営してまいりましたが、内閣府からの指摘により、「業務委託に関する規程」を整備しました。

そして、2020学年度の採用から、「米山奨学会」と「地区」との間でまず覚書を交わし、続いて「地区」と「世話クラブ」との間で覚書を締結していただくこととなります。これは、毎年実施するものです。事務手続が少し増えますが、奨学生に関してやっていただく内容はこれまでと変わりなく、互いの位置づけを改めて明文化した、ということになります。2019年12月からスタートします。

2018年度より第7代理事長に当地区豊田RCの斎藤直美氏が就任。

当地区としてはしっかりと応援していかなければなりません。

最後にご支援のお願いでございます。

当地区の目標は、普通寄付と特別寄付金の合計が一人当たり20,000円。

特別寄付率80%です。よろしくごお願い申し上げます。

第4回理事会

I 会長挨拶 〈会長〉

II 議題

1. 10月・11月のプログラム（案）について

〈クラブ奉仕委員長〉

〈プログラム委員長〉

2. 健康診断について

〈職業奉仕委員長〉

